

始業式での校長講話の前編です。

4月8日（月）、体育館で始業式を行いました。そこでの校長講話（約10分間）の全文を2号にわたって掲載します。今号は、その前半部分です。

4月8日の始業式での校長講話 ー前編ー テーマ：「キャリアガイダンス」

- 皆さん。おはようございます。校長の中島博司です。今年度も私が校長をつとめます。4年目になります。よろしくお願いいたします。それでは、始業式に際して、皆さんにお話をさせていただきます。今日のお話の時間は、約10分間です。
- ここに1冊の雑誌があります。リクルート社の発行している『キャリアガイダンス』という進路指導・キャリア教育専門誌です。全国の高校約5000校に配付されている雑誌で、発行部数は約3万部と聞いています。
- その雑誌から、昨年12月にインタビュー取材を受けました。約2時間お話しするとともに、カメラマンが来ていて、玄関ロータリーで写真撮影もありました。その結果、このような記事になりました。この年になって、グラビアデビューした感じです。この記事は、校長室前に掲示してありますが、読んだ人はほとんどいないと思います。今日は、平成最後の校長講話ということで、この記事の内容を紹介させていただきます。インタビューをもとに、リクルートのライターの方が、書いてくださったものです。
- 高校の先生方へのメッセージという内容ですが、生徒の皆さんにも、参考になる部分があるだろうと思い、紹介させていただきます。タイトルは「世の中が変わる時は自分も変わるチャンス 自分の気持ちに忠実に生きよう」です。それでは、読んでいきます。
- 4月に、私は教員としての最終年度を迎えます。教師を目指していた高校2年生の頃、専門教科に迷う私に「中島くんは 何が好きなの？」と聞いてくれた先生がいました。得意な教科より歴史を選んだその時からずっと、好きなことに一生懸命取り組んでくることができました。これは、教師という仕事の幸福な一面です。
- 教師であれば皆、教えるのが好きで、授業をよりよくしたいという気持ちを持っていますよね。私も、キャリアの初期からいろんな挑戦をしてきました。初任校では、学生時代に出会った梅棹忠夫の『知的生産の技術』にならい、「カードシステム学習法」を考案しましたが、生徒が使いこなすには難しすぎる方法となってしまう、失敗でした（笑）。

<次号につづく>

